

夢きよく 道はるか

甲府市立東中学校学校だより
平成29年10月 特別号
文責：校長 仙洞田 茂雄

本校の学力・学習状況をお知らせします

全国学力・学習状況調査（全国の小学校6年生、中学校3年生対象）は、生徒の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善、生活指導などに役立てることを目的としています。

本校でも、4月18日に調査対象となる3年生が参加しました。調査内容は、大きく①教科に関する問題（国語・数学）と、②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査に分かれ、各教科もA：主として「知識」に関わる問題と、B：主として「知識・技能の活用」に関する問題に分かれていました。この調査は、1・2年生も3年次には全員が調査対象になる予定です。

去る8月28日に文部科学省から、その結果が送られてきました。本校も、当該学年職員、各教科部会、さらに全校体制で調査結果の分析を行ってまいりました。このたび分析結果がまとまりましたので、その概要を保護者や地域の皆様にお知らせするとともに、本校のホームページにも掲載していきたいと思っております。

なお、調査に参加しました3年生一人ひとりには、個別懇談等を利用して個人票をもとに、具体的に課題等について説明していく予定です。よろしくお願いいたします。

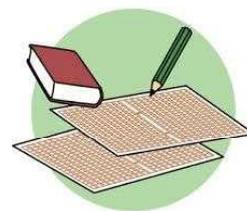
分析結果の概要



1 本校の状況（全国との比較）

本校の結果は、国語A・国語Bは全国平均よりやや高く、数学A・数学Bは全国平均よりやや低い学力であると言えます。各教科ともに単元により正答率が高い設問があったり、正答率が低い設問があったりします。これについても全国とほぼ同様の状況でした。無解答率についても、全国平均、県平均と比較して低く、問題に対してあきらめずに最後まで取り組もうという姿勢が見られました。各教科とも共通して言えることは、自分の考えを説明したり、文章で表現したりする記述式設問に対してやや高い正答率です。国語に関しては、短答式の設問に対しても全国平均、県平均よりも高い正答率でした。

2 各教科の結果・分析・改善点



国語の結果・分析

A 主として「知識」に関する問題

- 問題全体を通して、「書くこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、全国平均、県平均をやや上回っています。
- 「話すこと・聞くこと」と「読むこと」に関する領域は、ほぼ全国平均と同等の結果であったといえます。
- 無解答率については、全国平均や県平均と比べて極端に低く、どの設問に対してもあきらめずに最後まで取り組もうという姿勢が見られました。特に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、「文章に即して漢字を正しく書く」の正答率が非常に高かったです。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う（謙譲語と尊敬語の使い分け）」、「話すこと・聞くこと」については、「事実と考えとの関係に注意し、工夫して話す」ことに課題があります。
- 「読むこと」については、「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する」ことにも課題があります。

B 主として「活用」に関する問題

- 問題全体を通して、全領域とも全国平均、県平均をやや上回っていました。特に「伝統的な国語文化と国語の特質に関する事項」での正答率が高かったです。
- 国語A同様に無解答率が低く、記述式の問題にも真剣に取り組んでいたといえます。特に「必要な情報を集めるための見通しをもつ」という資料活用能力をみる発問の正答率が、全国平均、県平均を大きく上回っていました。
- 「話すこと」に関する問題の「目的に応じて資料を効果的に活用して話す」や「書くこと」に関する問題の「集めた材料を整理して文章を構成する」といった実際の技能については、全国平均をやや下回っていました。

国語の主な改善点

A 主として「知識」に関する問題

- 漢字の読み書きについては、同訓異字や同音異義語の書き分けなど、漢字の持つ意味から類推して答えるということをごろから意識させます。そのためにも、わからない語句は、まめに辞典をひかせるので、授業では常に傍らに辞書をおくことを習慣化させます。また、既習の漢字は、「生活のあゆみ」や行事の感想作文など、日常でも積極的に使わせます。
- 語句については、意味を理解し、文脈の中で適切に使うためにも、わからない言葉はすぐに調べたり、類義語や対義語など一つの言葉から派生させたりすることも効果的だと考えます。
- 書写については、文字の形や大きさ、配列に注意して書くためにも、毛筆だけでなく、封筒のあて名やノート、原稿用紙など、日常的な硬筆指導も必要だと考えます。
- 尊敬語と謙譲語の区別に課題があるので、日常生活の中で、敬語を使う場面を意識させます。
- 「読むこと」に関しては、普段から新聞や本など活字を読むことを習慣にし、文章の内容を正確に読み取らせたり、図表やグラフなどさまざまな資料から、必要な情報を読み取らせたりすることが読解力の向上に役立つと考えられます。根拠を明確にすることが重要なので、自分の考えのもとになった理由をはっきりさせることを、授業でも意識させます。

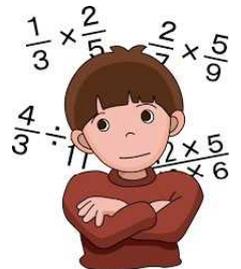
B 主として「活用」に関する問題

- 今後も活用する力を磨くために、資料理解に加え、その根拠を結び付けて自分の考えを記述できるように指導する必要がある。授業中や日常生活の中での発言や行事後の作文など、継続して指導していきます。文章構成力を身につけさせるために、接続語の使用や最初に自分の考えを述べ、その考えのもとになったものを書いていくなど、条件の提示の仕方も工夫します。
- 毎日の「生活のあゆみ」や行事での作文、授業の発言についても、解答の理由を述べることなどを継続して指導していきます。また、朝読書、新聞コラムの視写、要点のまとめなども、文章を読み慣れ、表現について習得するよい機会なので、今後も習慣化させていきたいと考えます。語彙を豊かにするために、心に残った言葉を書き留める「出会いの手帳」も有効活用していきます。

数学の結果・分析

A 主として「知識」に関する問題

- 「資料の活用」の領域では全国平均、県平均に比べて上回っています。「関数」の領域では全国平均、県平均と同程度ですが、「数と式」「図形」の領域においては正答率がやや下回っています。
- 数と式における理解が不十分であり、基本的な計算ができない生徒も見受けられます。特に中学校1年生で学習する基本的な計算問題の理解が不十分です。基本が定着していないところがあるため、その上に成り立つ計算や考え方に支障をきたしています。例えば正負の数の計算ができないため、一次方程式が解けず、一次方程式が解けないために、連立方程式が解けない状況がうかがえます。
- 図形における理解が不十分であり、公式や用語を覚えていない状況があります。図形の体積を求める公式を覚えていない。錯角の位置にある角がどこであるかを覚えていない。また、証明で使う合同条件が理解できていない生徒も見受けられます。



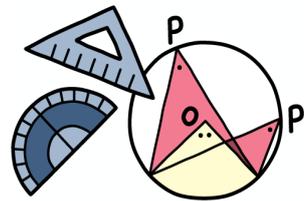
B 主として「活用」に関する問題

- 「数学的な見方や考え方」の観点を見る問題では全国平均を上回っているのに対し「数学的な技能」の観点を見る問題では全国平均、県平均よりやや低い数値でした。
- 全国平均、県平均と比べると、説明することや解釈する問題、物事の本質を捉える問題や、計算をして表現・処理をする問題、文字を使って規則性を数式にして表す問題、 a の変域に対応する b の変域を求める問題の正答率もやや低い数値でした。

数学の主な改善点

A 主として「知識」に関する問題

- 基礎的・基本的な計算の繰り返し学習に力を入れます。
- 新しい単元に入る前に過去に学習した用語や計算方法などを確認する時間を設け、基本的な計算や考え方が関連した単元に活用していけるようなスパイラル学習を仕組みます。



B 主として「活用」に関する問題

- 問題の中に提示された文章や情報を読み取る力をつけるために、図・表・グラフと問題とのかかわりを丁寧に説明し、最終的には自分の言葉でそれらの関連を説明できるように学習を進めます。
- 自分の考えを表現する場面を授業の中で設定し、「なぜそうなるのか」という説明ができるように、グループ活動を活用しながら授業を進めます。
- 現在行っている家庭学習を継続し、生徒が自ら学習に臨む姿勢をつくれるようにさらに工夫改善をしていきます。



3 質問紙調査の主な特徴

生活習慣について

- 「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時間に起きる（寝る）」については、やや上回っており、規則正しい生活をしている生徒が多いです。
- 「自分にはよいところがある」については高い数値であり、自己肯定感も強い傾向です。
- 「ものごとを最後までやりとげてうれしかった」「失敗をおそれずに挑戦する」という経験が少ない傾向です。
- 家庭における規則正しい生活習慣はおおむね良好です。今後も適切な生活習慣の確立が求められます。

学習に対する関心・意欲態度

- 話し合い活動などで、「自分の考え、意見を発表する」ことや、「意見を最後まで聞く」力が全国平均、県平均よりもやや低い結果です。
- 「将来の夢をもっていますか」という質問には「もっている」と答えている割合が全国平均、県平均よりも高い結果です。
- 「授業で学んだことを日常に活かしている」という質問に対して、全国平均、県平均よりもやや低い結果です。
- ネットへの関わりについては、入学時から常に訴え続け、特に、ネットについては、何度も学年で話し合いをしてきました。「ネットで9時以降他人にメールをしない」「学年で私的なグループをつくらない」「画像をアップしない」など。3年間留意してきた事項について、全国平均、県平均に比べ大変低くなっています。
- テレビ、ゲームをする時間についても、全国平均、県平均に比べて低い数値となっています。

家庭学習について

- 家庭学習時間（土日）は全国平均、県平均に比べてやや高い数値となっています。
- 宿題、予習は全国平均、県平均に比べてよくやっています。また、ノルマ的学習についても、よくやっています。
- 自ら復習することについては全国平均、県平均に比べて低い数値となっています。また、自分で計画を立てて、学習する点もやや低い数値となっています。

- 読書は好きだが読書量は全国平均、県平均に比べて低い数値でした（5月の時点での数値であり、現在は大変多くなっています）。また、新聞を読む時間も低い数値となっています。

1, 2年までに受けた授業について

- 1, 2年次の授業を振り返ると、授業中の課題によく取り組み、話し合う機会も多かったです。
- 「話し合い活動」「グループ学習での課題解決学習」「自分の考えがよく伝わるように、資料や話し方を工夫した」はいずれも全国平均、県平均を大きく上回っています。
- 「学習の目標の提示」について、「意識していた」に当てはまる数値は、全国平均、県平均よりやや低いですが、「まあまあ当てはまる」と感じている生徒の数値は、全国平均、県平均の数値よりやや高い数値でした。結果から目標をさらに明確に印象付ける必要があるということ、授業のねらいについてわかりやすく工夫する必要があることが分かりました。
- 「自ら復習する」時間が全国平均、県平均と比較して少ないことについて、授業をした後、その授業を振り返る活動の時間を確保するなど、授業構成の中でのまとめを工夫したり、必要があることが分かりました。

学校生活について

- 「学校に行くのは楽しい」という生徒は、全国平均、県平均を大きく上回っています。また、「学級で協力して何かをやり遂げうれしかったことがある」「先生はよいところを認めてくれている」の項目も、全国平均、県平均を大きく上回っています。
- 「学校の規則を守っていますか」「人が困っていたら助けますか」の項目についても上回っています。
- 生徒主体の民主的な学級経営の成果がうかがえます。今後も適切な生徒理解や居場所づくりに努めるとともに、楽しい学校生活の実現が大切であると思われれます。

4 家庭へのお願いをいたしました



文部科学省によれば、朝食を食べないことは生徒の学力にも大きな影響を与えるそうです。また、保健指導の観点からも朝食を摂ることはとても重要です。中には朝食を「食べたくない」と主張する生徒や「用意しても食べない」「時間がなくて食べられない」生徒もいるかと思いますが、子供の健やかな成長のため、また確かな学力の育成のためにも「早寝、早起き、朝ご飯」の励行をお願いいたします。

本校の生徒たちは、毎日の授業に大変前向きに取り組んでいます。結果から学習への意識の高さや、グループ学習への積極的参加、協力性の高さなどがうかがえます。

家庭学習の時間についても全国平均、県平均よりも高い数値でした。課題や宿題の提出についても平均を上回っています。しかし、自ら計画を立てて学習したり、復習したりする点についてはやや数値が低いです。また、読書や新聞を読む時間も全国平均、県平均よりも低い数値となっています。家族ぐるみでの取り組みが読書や新聞を読む量を増やす手段になると考えられます。

スマホによるゲームやLINEなどのSNSの使用については、入学時から「スマホ0」について取り組んできた結果、使用時間が少ない数値になっています。当然ながら、使用時間が長いほど、学習時間や睡眠時間が少ない傾向になります。さらに、本校では、ネットトラブルもほとんどない状態です。家庭学習に集中して取り組んだり、読書の時間を増やすためにもスマホの保有について家庭での取り組みをお願いいたします。

学校でも授業はもちろんのこと、宿題や課題の出し方などについてさらに工夫し、生徒自らが自主的に学習に取り組むことができるように働きかけていきたいと考えております。今年度から全校生徒が「家庭学習ノート」の有効活用についても取り組んでおります。各ご家庭におきましても家庭学習の習慣が定着できるようお子様への声かけやノートを見るなど家庭でのご協力とご理解の程よろしくをお願いいたします。

以上のことについて、各家庭にお願いをいたしました。